資料No. 1

三島地域の活性化に向けた提案

平成 31 年３月　日

案

第７期三島地域委員会
委員長　安　立　信　治

三島地域委員会では、平成 29 年度から２年間にわたり「安全で安心して暮らせる地域づくり」と「地域資源の有効活用」について検討を重ねてまいりました。

将来、防災行政無線が使えなくなった時の情報伝達方法等について検討を行い、安全で安心して暮らせる三島地域にするために、また、歴史と文化、自然が豊かな三島地域の資源をいかに有効に活用し、郷土愛の醸成と地域内外に三島地域の魅力を発信していくた、下記のとおり提案いたします。

１．安全で安心して暮らせる地域づくりについて

近年、全国的に大規模災害が頻発しており、想定外の災害がいつ・どこで起こっても不思議はない状況ですが、災害に対する備えが進んでいない町内会(自主防災会)も多いのではないでしょうか。また、災害時の情報伝達手段としての防災行政無線もいつまで使えるかわかりません。

最近の報道では「ただちに身の安全を確保してください」等の切迫したものが多く、町内会(自主防災会)としても、躊躇なく適切な防災行動を起こす必要があります。災害発生直後は、大規模災害であればあるほど、まず、自分(家族)の命を守ること「自助」が最優先になります。次に「共助」の仕組みづくりが大切です。

三島地域の自主防災会等の役員は１年任期のことろが多く、災害に対する備えや訓練などへの負担は重いのではないかと感じます。これらを考えた時に、三島地域では現状の防災体制はこのままで十分なのかとの疑問から議論してきました。

災害時の重要な事項の一つである安否確認をスムーズに行うためには、地域のコミュニティの充実が大切です。そのために「顔の見える関係づくり」を進め、「要支援者の支援」体制を構築することが、「防災体制の充実」につながっていくと考えます。

(1)顔の見える関係づくり

・最も身近な見守りである班での「回覧板」の手渡し等で会話を心がけ、地区行事への参加促進のため、高齢者、障害者(児)、妊婦等が参加しやすい行事を模索する。

(2)要支援者の支援体制の構築

・地域内の要支援者(高齢者、障害者(児)、乳幼児、妊婦)の把握。【町内会独自の調査】

・自主防災会で災害時の情報伝達、安否確認の仕組みづくりについて、第一に「自助」を優先し、その後、地域や町内で何が出来るか「共助」について考える。

(3)防災体制の充実

・現在の区長等役員の防災体制での役割を明確にするため、地域の実態に基づいた防災体制の構築。災害の段階に応じた情報伝達・避難誘導・支援体制の整備。多世代が気軽に楽しく参加できる防災訓練を計画。災害時の飲料水確保のため井戸水の調査など。

◆防災体制を充実する手段として、地域に防災に特化した<u>複数年任期の担当者</u>(**仮称：防災委員**)を設ける。防災に係る業務を、複数年任期の(**仮称)防災委員**が、区長と連携して担うことで、より充実した防災体制の構築が図られ、それに伴い区長業務の軽減が図られます。

・また、各地域で選任された(仮称)防災委員及び全地域の自主防災会を組織化することにより、地域間で平常時や災害時の連絡体制を構築し、三島地域の更なる防災力向上が目指せるのではないかと考えます。

①災害時の協力体制により、迅速に人的応援と備蓄、機材等の迅速な相互融通が可能。

②平常時の防災訓練など協力して行うことができる。
③なにより区長、三役の負担軽減につながる。

２．地域力・防災意識の向上について

地域防災力を高めるためには、自主防災体制の充実と防災意識の向上がセットで行うことが重要だと考え、地域住民の防災意識の向上のため次の点を提案します。

(1) 支所だより等に防災の豆知識的な情報を毎回掲載
・各個人への防災への興味や意識付けを行う。

(2) 各地域で、その地区に合ったより細かな防災マップの作成
・危険個所を確認し避難経路を考えるなど、マップを作ること自体も重要でありますが、作成するためにみんなで話し合う機会が設けられ、共通認識を持つことが防災意識向上に非常に重要であると考えます。

３．地域資源の活用について

三島地域には、蓮花寺の大杉や里山などの自然だけでなく、歴史ある神社・仏閣も多くあり、観光資源となり得る地域住民も気付いていない素材が多く眠っていると思います。

これまでもいくつかの観光マップが作成されていますが、まちめぐり等を企画し地域外の方の目で、三島地域の地域資源(魅力)を掘り起こしてもらう等で総合的な地域資源マップを作成し、地域外への PR はもちろん、地域内の人たちからも認識してもらう必要があると考えます。

また、公共施設では「三島中央公園」、「三島郷土資料館」など様々な施設がありますが、三島中央公園については、前期の第二分科会で注目し公園利用に関するワークショップ等を開催したことで、地域の皆さんから関心を持ってもらえるようになりました。

今期では、児童や利用団体による施設補修ボランティア、コミセンまちづくり部会を中心とした草刈り等の管理作業が行われました。さらに今年の１月には三島地域で初となる冬の屋外イベントが三島中央公園を会場に開催されました。この動きは、今後も継続し前進していってほしいと考えます。そのためには、市を中心とした公園等の整備・管理体制を確立していくことにより、三島中央公園の活性化に結びつくと考えます。

次に、三島郷土資料館は、三島地域の伝統産業の「脇野町鋸」や日本古来の数学「和算」が記された算額等の資料が展示されていますが、まだ調査され展示されていない資料等も多くあると聞いています。

みしま観光協会では、２年前から和算・算者の調査や算額の復元を行っています。三島地域では江戸時代に日本で独自に発達した算術の「和算」に優れた大家(算者)を多く輩出しており、近隣に例がないほど和算を学ぶ人が多かったと言われていますが、地域住民からはあまり知られていません。「和算・算額」を新たな地域の宝として地域内外にわかりやすく紹介するために、三島郷土資料館における展示方法やレイアウトを検討する必要があると考えます。

そこで「和算・算額」を中心に、文化財や資料等の保存や展示方法等に関して、外部の専門家や有識者に検討してもらい、算額や和算の歴史等、魅せるレイアウトを作成してもらい展示することで、皆さんから注目され愛される資源、施設になるのではないかと考えます。

【まとめ】

いつ来るかわからない災害に備えることは、労力・費用面でたいへん負担になります。まずは、顔の見える関係づくり「回覧板を手渡しする」等のできることから取り組むことにより、コミュニティの強化と防災体制の充実、個々の防災意識の向上につながるのではないでしょうか。

また、三島地域の資源や公共施設を有効に活用することにより、温故知新、郷土愛と誇りを持てる三島地域になることが、次代の子ども達の育成につながるのではないでしょうか。